

他人が思う“苦勞”も、 覚悟さえ決めていれば 捉え方も変わるもの

有限会社ミヤノテック 代表取締役 宮野悟氏

2020年の東京五輪開催決定を受けて揺れ動く日本の姿に、長野冬季五輪開催準備に奔走していた当時の長野の様子を思い出す。それは、高速道路や各種競技施設建設など、長く冬の時代に耐えてきた建設業界がようやく息を吹き返すきっかけとなり、同時にあるアルバイト青年に独立開業を決意させる出会いを与えたものだった。



■理容師から一転、建設業界でアルバイトに

私は高校卒業後に専門学校へ進んで国家資格を取得し、実家の理容室に入りました。しばらく父の下理容師をしていましたが、親子だからこそ遠慮がないからか衝突してばかり…結局、理容師を辞めて、知人の紹介で高速道路の建設現場にアルバイトとして通い始めました。後にこれが転機となり、人生は大きく変わって行きました。



■先輩の言葉と時代に後押しされ独立を決断

当初は言われた仕事を淡々とこなすだけの日々でしたが、ある現場監督さんの言葉が私に「建設業で生きて行こう」と決意させてくれました。それは、「将来子どもができた時に、『この道はパパがつくったものなんだぞ』って言えるなんて、すごいことだよな」というひと言でした。くわえて、当時は下請けの下請けという立場でも単価が高く、独立開業すれば働いた分だけしっかり稼げるという判断もありました。とは言え、当時私はまだ20歳そこそこの駆け出しです。今振り返れば、経営の知識ゼロにも関わらず大胆な決断だったとは思いますが、でも、店を営む父の背中を見て育ったため、心のどこかに経営者としての強い覚悟だけはあったように思います。



「大切なのは、お客様や社員と誠実に向き合うこと。そして、日々の努力に勝るものはないと、強く信じる心を持ち続けること」と、宮野代表。十分な実績を積んだ今もなお、周囲に学ぼうとする真の努力家。常に自分に合う手法やコツを模索・工夫する姿勢をぜひ見習いたい。

■厳しかった父と見守ってくれた母に感謝

いずれ家業を継がせるといった思いがあったからか、父は非常に厳格でした。その厳しさへの反発もあり一時はやんちゃをしていた頃もありましたが、母は叱るでもなく常に温かく見守り続けてくれました。いざ「会社をつくりたい」と言った時の父は、意外にも私の決意を認めるだけでなく先輩経営者としてこんなアドバイスをくれたのです。「会社経営は簡単ではないけれど、誠実に努力すれば簡単だ。すべては自分の気持ち次第。この先取引先の倒産などお金に関する予期せぬ問題が生じるだろうが、慌てることはない。借金は懸命に働く者を追い越すことはないのだから」と。そんな父の気構えと母の優しさは、経営者として生きる私の原点になりました。



■経営者たるもの、覚悟がなければ務まらぬ

父が言った通り、私もまたお金のトラブルや人手・資材不足等の問題に直面しました。でも、そもそも経営とは【収入を得ること】であり、最も困難な【人を使うこと】でもあります。むしろ簡単であるはずがないんです。だからこそ覚悟が必要であり、覚悟さえあればどんな苦勞も当然のこととして受け止め乗り越えられるのです。

宮野悟氏(みやの・さとる)
有限会社ミヤノテック 代表取締役

座右の銘は「勇往邁進(困難をものともせず突き進むこと)」「冥冥之志(人知れず熱心に努力する心)」。周囲から慕われ、何かと頼られる“親方”だ。

